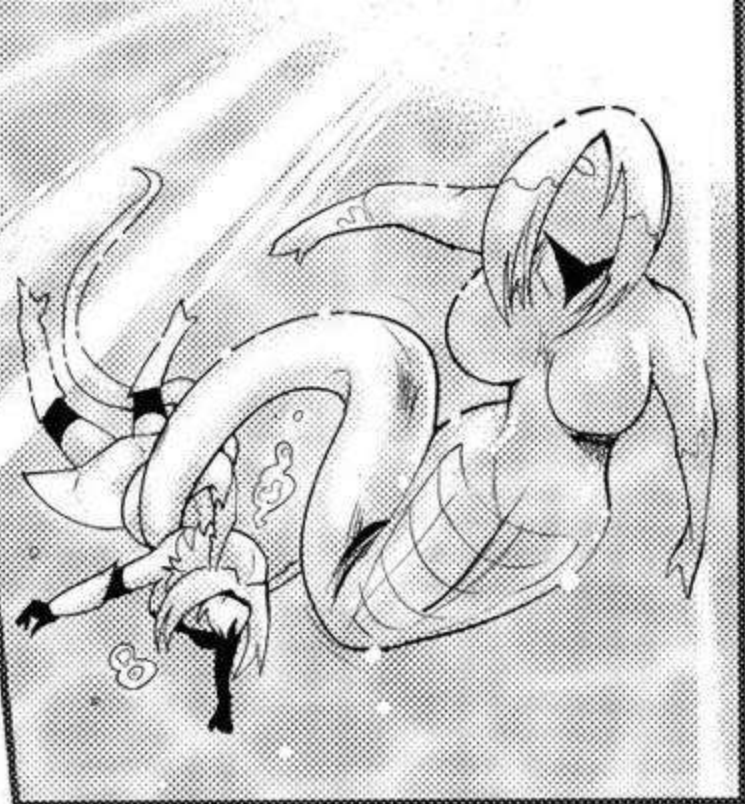


創世
魔界
淫器

才
可
屈
人
亦
不

ADULT ONLY
R-18
成人向け



アッアッアッ

アッアッアッアッアッ

アッアッアッ

アッアッアッアッアッ

アッアッアッアッアッ

アッアッアッアッアッ

アッアッアッアッアッ

アッアッアッアッアッ

アッ

アッ

アッ

戦禍渦巻くアトランティスの大海をひっそりと泳ぐ一匹の蛇。

オリジンラミア。

テオスクリロミアを大量に注入され、カルデアの者たちを熱探知で追尾し自爆する、異聞帯の将オデュッセウスが用意した生物兵器、その一体。その尾に絡めとられるは一人の女。

神霊カイニス。

この異聞帯を統治するクリプター・キリシユタリアのサーヴァントにして、カルデアの者たちとの激戦の果て、味方である筈のディオスクロイの双子の攻撃を受けて大海に沈んだ哀れな戦士。

不発したオリジンラミアの一体が沈みゆくカイニスを見つけ、拾い上げて共に海域を離れ。一人と一匹は近くの島、岩礁の洞穴に逃げ込んだ。

この個体が臆病だったからだろうか。賢かったからだろうか。はたまた本能に忠実だったのか。蛇女は洞窟に入ると拾ってきた傷だらけの女の全身を丹念に舐め回した。

調整が難しい生物には過ぎた神の力・テオスクリロミアを許容量など考えず注ぎ込まれた体は今にもはちきれそうで、少しでも早く多く排出したい。

その力による爆発の恐れと、投げ出された戦場の地獄のような光景。死の恐怖に駆られいきり立つ生存本能。種の保存衝動。交尾がしたい。傷だらけながらも力強い命の力を発するこのメスと。

唾液から神の液体を少しずつ排出し、女に塗り込み癒していった。交尾に耐えられる状態まで。それと並行して女の体を丹念に愛撫し、雌肉の旨味を高めていく。とても気持ちの良い交尾ができるように。

ディオスクロイに刻まれたカイニスの体はじわじわと癒されていく。蛇の長い舌で体中を。わきの下。首筋。胸の谷間。口内もくまなく。鼻の孔の中まで舐め回され。全身唾液でひたひたにされる。

蛇の長い体でぐるぐるに巻かれ、神の力を含んだ唾液を塗り延ばされ。瑞々しさを取り戻していく。

同時に急速に性感も高められていく。蛇の大きな口は胸全体をフェラするようにしゃぶり。長い舌は乳房を絞るように、乳首をしごくように責め。蛇の尾は媚肉を擦るように這いまわり肉ひだ一枚一枚に丹念に神汁を塗り込む。テオスクリロミアの原液を塗り込まれる刺激は強烈で、体の反応も急激に高まっていく。

カイニスの肉壺からぽつぽと出入りしていた自分の尾がべつとりと白く染まり、『これではテオスクリロミアが薄まってしまふ』などとラミアがほくそ笑んでいたとき、カイニスが目を覚ました。



愛液で薄まってしまふ。
尾では神の汁を届かせることはできない。ラミアはカイニスの肉壺にその長い舌を埋め込んだ。

ザラついた舌で膣内を徹底的にかき回し舐め倒し

先割れした2本の舌先を子宮口に這わせ、回し、くるくると磨くように舐めて塗り込む。

『カイツツ…なんだこれ…ツツ…ぐうツツ』
カイニスはその強烈な性感に困惑しながら背を仰け反らせ、ラミアは仰け反る女の股から溢れる汁をサーバーから直飲みするように喉を鳴らし味わった。

ほわっ!!

ほわっ!!

ほわっ!!

ほわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ぐわっ!!

ラミアと同様にカイニスも同様に消滅を——死を強烈に感じていた。生前忌み嫌いな捨てた女の体。が、そんなことはお構いなしに、彼の女の体は孕む準備を整えていた。子を孕む機能のないサーヴァントとなっても、人間の本能は止まらない。

最低限取り繕われた、槍を出すこともできない、怒りのままに暴れれば崩れてしまいそうな重い体。

経験も口クにないまま男となった故に生前も、サーヴァントになってからも味わうことのなかった強烈な女の悦びにむせびなくカラダ。

狂った体と朦朧とした頭が、このラミアの蛮行・淫行に対する彼女の狂化を、怒りを量っていた。

もつとも今のカイニスでは噛みついたところで文字通り歯もたたないだろう。ラミア種がメスしかいない生物、相手が女なのも小さくない要因かもしれない。男の王だった時に女は抱いた。女からの奉仕だと思えば怒り薄らいだ。

が。目の前に突き出されたモノを前に、薄らいでいた怒りの炎が燃え盛った。

ラミア種はメスしかない。故に全てのラミアが両性偶有である。

カイニスの蜜壺すすりに満足したラミアは尾を使いカイニスを己の胴体の上に座らせると、鱗の隙間からによつきりとふたなりチンポと剥き出しにした。こわばるカイニスの下腹に亀頭を添わせ、子宮があるであろう場所にドンツ!!と槍の穂先を突き立てた。

『今からここに注いであげる。私の胎内にパンパンに収められた、高濃度テオスクリロミアたっぷりの雌へびふたなりチンポ汁。私がオスでああなたがメスよ。絶対に孕ませる。さあ股を開きなさい。』と言わんばかりに。

カイニスは地獄の2択を迫られた。無様に生きるか。無様に死ぬか。

怒りに任せてこのクソメスチンポを八つ裂きにして、男としての誇りを守って崩れ落ちるか。ディオスクロイなんぞに負けて死んだみじめさを抱えて。

体を・脳を焼き切りそう怒りを抑えて男としての誇りを捨てて、このクソメスチンポに縋り付く『オンナ』になるか。そのみじめさの代償に、ディオスクロイに、オリュンポスの神どもに、カルデアの連中の前に再び立つ機会を得るやも。

事実下腹に感じる先走り汁は、自分の一番深いところに注げばひび割れた霊核すら繋ぐ濃い力を感じさせた。

怒りが頭を駆け巡る。デイオスクロイへの。カルデアのクツ共への。ここで死ぬ自分への。交尾する選択肢なぞ考える自分への。交尾するなら当然思い出す：生前自分をブチ犯したあのポセイドンとの交尾、その時の怒りを。

しかし彼の怒りを吹き飛ばしたのは、浜辺での密談。笑う己が主の顔だった。「あれ」をクリュタリアが成し遂げる。その痛快な光景を見ずには去れない。本当にあいつが「あの計画」を俺にしか打ち明けていないなら、俺の力なしに成し遂げられるとは思えねえ。俺は最強の神霊だから…!!

そう、最強の神霊であるために彼女は股をぱっかりと開き己の槍ではないおぞましい肉槍を掴んで

抱けや…!!

と言った。





ぐっ...あああ



フッフッフッ

フッフッフッ

子宮に神水を注がれさうに回復した
カイニスにラミアはこれまでは加減していたと
言わんばかりに蛇の体を鞭のようにしなりせ、
一層深々とぶたなりチンポを突き立て、何度も何度も
汁を吐き出していく。カイニスも形振りかまわれない。
声も快感も抑えることをしない。今だけは許してやる。
お前のオンナになつてやる。だからもつとよこせ、全部吐き出せ。
外は戦禍。轟音で誰にも聞こえない。誰も見る余裕はない。
三匹の雌は獣のような喘ぎ声を洞窟に響かせた。



完全に自分のオナナ扱
しやがって…俺に竿を掃除
しろってか…
俺はもうちよっと足りねえ
ってのに満足しやがって…
待てばまた勃つだろうが

そんな時間
ねえんだ…
仕方ねえ…

なんでもしてやる…!!
泥水だろうか…
俺の愛液と混ぜた
くっせえ精液だろうか
吸ってやる…!!

みつともねえ
が…今更だな
どうせ誰も
見てはいない…
この洞窟の中
だけは…



おれは...
おれは...

ブ
ン
ン

ゴ
ゴ
ゴ

テメエの汚え槍が
俺を突いたのと
同じ分だけ

最低限だ...

最低限
闘えるところまで
回復させて
もらった...

感謝するぜ
クソメス
チンポ野郎

お返しに
突きまくって
挽肉にして
やりたいところ
だが

運がよかったな
俺は急ぐんでな

一突きでキモチよく
昇天させて
やるからよ...!!

ゴ
ゴ
ゴ

おれ...

亀頭の溝、竿裏の皺の隅から隅まで。膣壁を掻き乱してくれた肉粒の裏、尿道に残った一滴残らず。人でいう腿にあたる場所、自分の膣から溢れ垂れたものも舌と手で掬って。序盤のほうの、もうカピカピに乾いてしまったものがこびりついていて腹回りも、舌で舐って唾液で溶かして舐めしゃぶって。

自分の愛液と精液とテオスクリロノミアのミックスジュースをカイニスは構わず飲み干した。

轟音が轟き島が小さく揺れる。洞窟中に充満したメスの濃厚なニオイと淫らなまぐわいの痕跡を爆煙で一切消し飛ばしカイニスは一人洞窟から現れる。

洞窟の外、岩礁から見渡す海はいまだ戦の最中といった光景が広がっていたが、不思議と時間は経っていないようだった。まるで丸一日まぐわっていたかのような感覚だったのに。昂って時が長く感じたのか？この洞窟が不思議な能力を持つ場所だったか？アトランティスの島々は全てオリュンポスから墜とされた神々の神体。そういうこともあるだろうか？はたまたラミアに注入されたテオスクリロノミアが時を操るクロノス神のものでその権能が発動していたのか？

今となってはわからないしそんなことはどうでもいい。最低の行為のおかげで最低限闘える体になったという事実だけでいい。

『クッソ…ほんとに最低限だ……最低のコンディションだが……不思議と気分は悪くねえ……
待ってるよカルデア…!!ディオスクイ…!!オリュンポスのクソ機械神ども…!!
待ってるよ……キリシユタリア…!!』

キリシユタリアからの魔力は絶えず届いていたが、ひび割れた器から全て霧散してしまっていた。体を、核をしつかりと接着した今、貯まり始めた魔力で再生した霊衣を、下着をグイッと引き上げて気合を入れると、フラフラとした足取りではあるがそれでもしつかりと海を、その先の空を見据え

彼は海へと飛び込んだ。



あとがき

もとはアトランティスプレイ時に思いついたラクガキで
夏コミあるかわかんねーしこれをコピ本にしようか、まだ蛇姦
描き足りないし夏コミ中止になってもダメージ少ないしな…

ってそんな流れで生まれた本です。
僕がカイニスとラミアのレズセックス描きたりなさすぎて
30ページ近くに膨らんでしまい、夏コミは中止になりましたが
エア夏コミやるって話になったので結局オフセ本になりました。

でもこれで満足したぜ……。
ラミアとのレズセックスは満足した。

女マスターとも武蔵ちゃんともモードレッドともレズらせたいので
カイニスはまた描くと思います。

俺たちの満足はこれからだ!!

そんなカンジで。次の本もお愉しみにしていただければ。
お手に取ってくださりありがとうございました。
病で同人界限も苦しいですが、あなたのおかげできっと次の本で
また会えます。それでは。

凸傘

武蔵本続編予定



奥付
『オリュンポス創世記/双性器』

発行/凸傘 発行人/サガツとる
(gdgangx@gmail.com)
発行日/2020/05/13

印刷/株式会社 栄光様
(<http://www.eikou.com/>)



PRESENTED

BY

トウガサ

FATE/GRAND ORDER FUN BOOK